



# えりもしやくなげ

発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

<http://www.town.erimo.lg.jp/section/>

[kyouiku/sg6h94000000pqh.html](http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html)

**フッ化物洗口8年目の検証  
大きな成果。13本の虫歯が0  
本に。ほとんどの児童が虫歯の  
本数が激減しました**

○えりも町では、虫歯予防の対策の一つとして、平成25年度から全ての小学校児童の希望者に対し、フッ化物洗口を継続して進めています。

○フッ化洗口液は、2週間に1回、教育委員会の職員が各学校に分配しています。学校では、児童が計画的に毎週1～2回のうがいをしています。また、そのほかの虫歯予防の取組もしています。

○令和3年3月の5年生と6年生に対し、第1学年当時との歯科検診の結果を比べてみました。(5年生は平成29年度1年生、6年生は平成28年度1年生)

参加児童数

- 笛舞小学校 5年4名、6年2名
- えりも小学校 5年22名、6年18名
- 東洋小学校 5年1名、6年5名
- えりも岬小学校 5年5名、6年7名
- 庶野小学校 5年9名、6年7名
- (5年41名 6年39名 計80名)

○5年生の虫歯数(令和3年度 現6年生)

児童	第5学年 (令和3年3月)	虫歯数の推移 (1年→5年)
0本	27名	(24名→27名)
1本減	6名	1本→0本
2本減	3名 (①1名、②2名)	①9本→7本 ②2本→0本
3本減	1名	5本→2本
4本減	3名	①10本→6本 ②8本→4本 ③4本→0本
5本減	1名	8本→3本
6本減	1名	6本→0本
変化なし	1名	2本→2本
1本増	4名	0本→1本
3本増	2名	①3本→6本 ②0本→3本

○6年生の虫歯数(令和3年度 現中1年生)

児童	第6学年 (令和3年3月)	虫歯数の推移 (1年→6年)
0本	28名	(23名→28名)
1本減	3名	①1本→0本 ②1本→0本 ③2本→1本
2本減	2名	①2本→0本 ②2本→0本
5本減	2名	①8本→3本 ②14本→9本
6本減	1名	7本→1本
8本減	1名	8本→0本
12本減	1名	12本→0本
13本減	1名	13本→0本

変化なし	5名	①1本→1本 ②2本→2本 ③2本→2本 ④3本→3本 ⑤1本→1本
1本増	1名	0本→1本

フッ化物洗口が虫歯予防に効果あり

○笛舞小学校では、5・6年生6名中、5名が虫歯0本、1人が10本から6本になりました。(虫歯本数の増加人数～0名)

○えりも小学校では、5・6年生40名中、虫歯0本が25名から28名となり、11名が虫歯の本数が減りました。中には6本から0本になった児童もみられました。(増加人数～4名)

○東洋小学校では、5・6年生6名中、ほとんどが虫歯は少なく4名が0本、2名が1本でした。(増加人数～1名)

○えりも岬小学校では、5・6年生12名中、虫歯0本が5名から11名になりました。また、7名が減り、中には12本が0本になった児童もいました。(増加人数～1名)

○庶野小学校では、5・6年生16名中、0本が5名から7名になりました。また、減った児童は7名、虫歯本数同じ児童は1名でした。特に、13本が0本になった児童もみられました。(増加人数～3名)

◎全ての学校で虫歯0本や本数減少が増え、逆に虫歯が多くなった児童はわずかであるなど、フッ化物洗口の取組が虫歯予防に極めて有効であることがうかがわれました。

## 東洋小の児童が残したすばらしい財産 東洋地区の防災マップ



○東洋小の児童は、今年3月で5名が卒業してえりも中学校へ、7名がえりも小学校に通学しています。

○2年前、当時3・4年生であった児童が「東洋地区防災マップ」を作成し、5・6年生になった昨年は、さらに工夫を凝らしてより詳しい防災マップを作りました。

○これまで、地域や保護者の皆さんに説明してきましたが、2月には最後の学習発表会で工夫した点などを含めて発表しました。

○この取組は、北海道で取り組んでいる防災教育の推進事業で、「北海道教育長賞」というすばらしい賞を受賞しました。

○このことは、児童の活動にとどまらず、地域住民への啓蒙を広める防災教育の実践として高く評価されるものと言えます。



えりも高校が「えりもの教育の最終章」。学ぶことの大切さを小学校の高学年から育てています。その取組の一つが「高校3年生の進路講話」です

○当町では、連携型中高一貫教育を平成16年度から進め、今年で18年目を迎えました。

○当初は、えりも中学校と連携した取組は校種間の違いから課題も見られましたが、中学校と高校の先生方の理解が深まり、今では教科だけでなく様々な場面で活動が展開されています。

○特に、「進路講話」は、中学生が高校生としての心がけなどを進学、就職の内定が決まった先輩から直接聞くもので、中学生に「学ぼうとする力」を育てるものです。

○4年前の平成29年度からは、講話を中学3年生だけでなく、中学生全員と小学校6年生も参加して、高校生にたくさんの経験談を話してもらっています。



○児童生徒は、メモを取り真剣に聞く姿がいつも見られます。

○この取組は、小中高が連携を図り、より望ましい学習習慣を児童生徒に身に付けさせるすばらしい実践と考えています。



○えりも高校では、先生方が「教育委員・地域学校推進委員学校訪問」の機会をとおして、連携にかかわる実践を説明しています。